



5月の活動の中で置き去りにされた猫達が悲鳴をあげています。

置き去りにされたねこたち！家族の一員として過ごした思い出は・・・どこへ？  
ペットとして飼われていた猫達が置き去りにされています。

思い出のある場所で、猫は飼い主を待ち続けています。

何日経っても飼い主は現れません。お腹が空いているのでしょうか？

鳴き声も小さいです。かすかに飼い主を求めて鳴いていました。

何日食べていなかったのでしょうか

触ってみると骨の上に皮が被さってる様な感触です。

飼い猫だったから人を怖がりません。餌を与えるとガツガツ食べました。

頭をあげて「いくらでも入るよ」と言ってます。

翌朝病院へ連れて診断してもらおうと、その猫は糖尿病でした。

病気だから置いていかれたの？外出が長引いて置いていかれたの？

交番に遺失物として子猫を届ける若者がいます。

道端で鳴いている子猫をみつけ可哀相と思ったのか、自宅の飼い猫が産んでしまったので困っての策だったのか判りません。

届けた後に交番に電話を入れ経過を聞いてきます。

勿論交番では「今ね、動物病院で保護してもらってるよ」と答えます。

若者は動物病院に電話を入れて聞きます。

病院では「大丈夫だよ。今ミルクを飲んで寝ているよ。見にきたら？」

若者は安心したのか・・・電話を切りました。

美談に思えた行為に病院側が疑いを感じたのは、何日も経たないうちに違う

交番に猫を遺失物として届けた若者が、同じように動物病院に経過の確認  
電話を入れたからです。

同じ声・同じ質問で絶対に会いには来ない若者の行動。

置き去りにされる動物は病気だったり、妊娠していたり、目の見えない子猫だったりが多いのです。

飼い主が義務を果たさないで、結果を放棄という形で小動物に押し付けている現状を伝えたいのです。

家族の一員として最後まで添い遂げていくのが飼い主の責務です。

猫は家に居つくとされていますが、「飼い主のいる家」に居つくのです。

引越しの際、必ず一緒に連れて新しい地で共有の思い出を作っていって欲しいです。

野良猫になれる猫たちも怪我をしたり、病気になっても必死で生きていますので、置き去りにされた猫たちが生き残る為に野良猫として順応するには、先ずテリトリーを大事に生きる猫達には厳しい環境です。猫同士の闘い、住民からの追い出し等々

飼い猫当時の環境が全く違います。

飼い主の責任放棄から、残された猫たちの選択は「生」か「死」。

環境省もポスターを作りました。捨て猫は罰金刑です。虐待はそれ以上の罪です。

「野良猫は増やさない！」飼い猫の正しい飼い方をすれば野良猫達は増えません。

動物愛護団体の会員が助けることができるのは、ほんの一部の猫達です。

置いてきぼりの猫達は、餌を見つける術を知りませんので、ほとんどが餓死します。

また飼い猫を外に出すことは、野良猫の繁殖を促したり病気や怪我にさせているようなものです。都内は車も多いので交通事故も遭遇しやすいのです。

必ず家の中で飼育し不妊手術をしてください。

皆さんからのご意見もどしどしお待ちしております。

動物愛護管理法も改正されます。

我が家のペットを守れるのは飼い主だけです。

春の引越しの時期のなかで、置き去りにされた猫達の数が、例年に比べ今年は増えています。

保護した猫達が幸せな余生を暮らせるような環境にできる地域づくりに力を貸して下さい。

管理人 あすなろより

